

## CQ25

## I B2, II A2, II B 期に対する腹腔鏡手術は推奨されるか？

## ▼ ステートメント

▶腹腔鏡下広汎子宮全摘出術は、標準治療としては勧められない。

推奨度 **2(↓)** エビデンスレベル **C** 合意率 **100%**

▶傍大動脈リンパ節の郭清(生検)は、治療方針を決定するうえで有用である。

推奨度 **2(↑)** エビデンスレベル **C** 合意率 **100%**

## [留意事項]

いずれも標準治療とはみなされず、研究的治療あるいは高難度新規医療技術として実施する場合には、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医(腹腔鏡)と日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医の協力体制のもとで、あるいは腹腔鏡の手術手技に十分習熟した日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医により施行されることを推奨する。

腫瘍径の大きい、あるいは子宮傍組織に進展した子宮頸がんに対する治療目的での腹腔鏡下広汎子宮全摘出術は、予後に関するエビデンスに乏しく標準治療としては勧められない。

転移の有無を診断する目的での腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清(生検)術は、開腹術に比べて侵襲が少なく、患者の利益(低侵襲性等)、医療経済的優位性(入院期間)の点から推奨されるが、わが国における一般診療での普及率が低いことから推奨度を2とした。

## CQ25-1 ● 腹腔鏡下広汎子宮全摘出術は技術的・治療的に妥当か？

▶▶現在のところ予後を論じることができる段階ではなく、標準術式とはいえない。

欧米では、I B2, II A2 期子宮頸がんにおいては CCRT もしくは開腹手術が標準治療のオプションとして挙げられているものの、腹腔鏡手術の報告は限定的である。腫瘍径が大きい子宮頸がんあるいは子宮傍組織に進展した子宮頸がんにおける腹腔鏡下根治術(広汎子宮全摘出術)の施行については、腫瘍の不完全摘出のリスクから NAC, CCRT などで腫瘍を縮小させて施行している報告がある。NAC, CCRT 後の腹腔鏡下広汎子宮全摘出術の技術的妥当性に関してはいくつかの報告があり、安全に施行可能な術式であると述べている<sup>1-4)</sup>。しかし、これらの報告では手術前の NAC, CCRT の方法にコンセンサスがなく、手術適応に課題がある。現在のところ、腫瘍学的予後を論じることができる段階ではなく、まだ標準術式とはいえない。

**CQ25-2 ● 腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清(生検)術は有用か？**

»腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清(生検)術によって傍大動脈領域の転移の有無を診断することは、治療方針を決定するうえで有用である。

子宮頸がんにおいて傍大動脈リンパ節領域への転移は予後因子の一つである。したがって、傍大動脈領域に転移があるか否かを知ることは治療方針を決定するうえで有用である。しかしながら、侵襲性の高さを鑑みると、開腹手術でステージングを行うべきでなく、侵襲度の低さの点で腹腔鏡手術に利点がある<sup>5)</sup>。進行がんにおいては骨盤内 CCRT に加え、予防的な傍大動脈リンパ節領域への照射が行われることがある。Leblanc は、特に腹腔鏡下傍大動脈リンパ節生検は正診率においても CT, PET-CT などの画像検索と比較し有用であり、リンパ生検で陰性ならば傍大動脈領域への照射を省略することで過剰治療を避けることが可能と報告している<sup>6)</sup>。さらに 5 mm 以下の転移陽性例は転移陰性例と予後は変わらなかった。しかし、リンパ節郭清(生検)の後に照射を省略できるほどのエビデンスの蓄積はない。傍大動脈リンパ節郭清(生検)が有効であったとする論文は諸外国から発信されているが<sup>6-10)</sup>、わが国では、現在のところ標準的な手技といい難く、「高難度新規医療技術導入における基本的な考え方」<sup>11)</sup>に沿って行われるべきである。

## 文献

- 1) Colombo PE, Bertrand MM, Gutowski M, et al. Total laparoscopic radical hysterectomy for locally advanced cervical carcinoma (stages IIB, IIA and bulky stages IB) after concurrent chemoradiation therapy : surgical morbidity and oncological results. *Gynecol Oncol.* 2009 ; 114 : 404-9. (OS)
- 2) Vizza E, Pellegrino A, Milani R, et al. Total laparoscopic radical hysterectomy and pelvic lymphadenectomy in locally advanced stage IB2-IIB cervical cancer patients after neoadjuvant chemotherapy. *Eur J Surg Oncol.* 2011 ; 37 : 364-9. (OS)
- 3) Gallotta V, Ferrandina G, Chiantera V, et al. Laparoscopic radical hysterectomy after concomitant chemoradiation in locally advanced cervical cancer : a prospective phase II study. *J Minim Invasive Gynecol.* 2015 ; 22 : 877-83. (OS)
- 4) Ghezzi F, Cromi A, Ditto A, et al. Laparoscopic versus open radical hysterectomy for stage IB2-IIB cervical cancer in the setting of neoadjuvant chemotherapy : a multi-institutional cohort study. *Ann Surg Oncol.* 2013 ; 20 : 2007-15. (OS)
- 5) Shingleton HS. Surgery for cervical cancer : a time for reassessment. *Gynecol Oncol.* 1998 ; 69 : 8-13. (EO)
- 6) Leblanc E, Narducci F, Frumovitz M, et al. Therapeutic value of pretherapeutic extraperitoneal laparoscopic staging of locally advanced cervical carcinoma. *Gynecol Oncol.* 2007 ; 105 : 304-11. (OS)

- 7) Sonoda Y, Leblanc E, Querleu D, et al. Prospective evaluation of surgical staging of advanced cervical cancer via a laparoscopic extraperitoneal approach. *Gynecol Oncol.* 2003 ; 91 : 326-31. (OS)
- 8) Del Pino M, Fuste P, Pahisa J, et al. Laparoscopic lymphadenectomy in advanced cervical cancer : prognostic and therapeutic value. *Int J Gynecol Cancer.* 2013 ; 23 : 1675-83. (OS)
- 9) Koehler C, Mustea A, Marnitz S, et al. Perioperative morbidity and rate of upstaging after laparoscopic staging for patients with locally advanced cervical cancer : results of a prospective randomized trial. *Am J Obstet Gynecol.* 2015 ; 213 : 503. e1-7. (RCT)
- 10) Gouy S, Morice P, Nabrice N, et al. Prospective multicenter study evaluating the survival of patients with locally advanced cervical cancer undergoing laparoscopic para-aortic lymphadenectomy before chemoradiotherapy in the era of positron emission tomography imaging. *J Clin Oncol.* 2013 ; 31 : 3026-33. (OS)
- 11) 公益社団法人日本産科婦人科学会. 高難度新規医療技術導入について.  
[http : //www.jsog.or.jp/modules/news\\_m/index.php ? content\\_id=228](http://www.jsog.or.jp/modules/news_m/index.php?content_id=228) (最終アクセス日 : 2019年3月1日)